

【研究主題】 おはなしひろば ～生徒による読み聞かせ活動～

【学校名】 大津市立伊香立中学校

1 本校の概要



本校は、比良・比叡の麓、自然豊かな山里にあり、古来より京都や若狭への通過地として賑わった歴史的地域である。本校の学区

区である伊香立中学校区は、自治組織が活発であり、学校教育に対してたいへん協力的な地域である。民生委員さんと生徒会との交流や学校行事への地域の方々の参加、また、教育後援会として、毎年多額な経済的支援もしていただいている。

本年度入学生が12名、全校生徒は29名と小規模校である。新入生の生徒数は依然として年度ごとに差が大きく、校区内小学校の児童数は増加傾向とはいえ、学校選択などによる影響が出ている。

全校生徒のうち、約40%が学区外で、少人数によるきめ細やかな対応を希望して本校を選択している生徒も少なくなく、年々増加傾向にある。

そのような期待に応えるべく、ICT機器活用をはじめ、さまざまな手だてを工夫し、生徒一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育に取り組んでいる。

そのひとつの手立てとして、図書を活用した取り組みを行った。

2 読み聞かせ活動の方法

生徒による読み聞かせ活動は、通常以下のような手順で進めた。



①本の選定

読み聞かせる本は、生徒が自分で選んだ。

絵本や物語、詩など、多様なジャンルから選ぶこと

で、読み聞かせの効果を高めることができる。

②練習

生徒は実際に読み聞かせを行う前に、声の抑揚や発音、表現力を意識して練習を行った。この段階では、読

むスピードや間の取り方にも工夫を加えていた。

③読み聞かせ

朝の読書活動の時間に生徒が他の学年の生徒たちに向けて読み聞かせを行った。

④振り返り

読み聞かせの後、どのような反応があったか、どの部分がうまくいったか、逆に課題があったかを話し合い、改善点を見つけた。

3 活動の成果

生徒による読み聞かせ活動は、多くの成果を生み出しました。

①コミュニケーション能力の向上

生徒は読み聞かせを通じて、自分の言葉を相手に伝える力を養った。また、声の大きさや抑揚、表情などを意識することで、表現力が豊かになった。

②リーダーシップや責任感の育成

他の生徒や幼児に本を読んであげることは、リーダーシップを発揮する機会である。また、活動に対する責任感が強まった。

③他者との関係の深化

読み聞かせを通じて、相手の反応を感じ

取り、共感することができるようになった。これにより、相手を思いやる気持ちや人間関係が深まった

④読書への興味促進:

読み聞かせを行うことで、自分自身も本をもっと読みたくなると同時に、聞く側の子どもたちにも読書への興味が高まった。

「読み聞かせ」には単に各個人が読書を黙々とするだけでなく、生徒から生徒への読み聞かせを行うことにより、上記に述べたような効果が期待される。

今後、更に発展的に生徒から幼児へ読み聞かせたり、生徒からお年寄りなどの異年齢の方々への読み聞かせと繋げていきたい。

